

**プログラミング演習Ⅰ
課題2
10進数と2進数**

—チェックディジットと全加算器—

プログラミング演習Ⅰ

課題2 10進数と2進数

- **目的**

- 関数の定義の仕方や使い方, 標準関数を利用する仕組みを学ぶ

- **題材**

- (1回目) 整数 $\leftrightarrow$ 10進数の変換
- (1回目) 学籍番号のチェックディジット生成法
- (2回目) 整数 $\leftrightarrow$ 2進数の変換
- (3回目) 2進数での加算

- **課題は5つ**

課題概要

本日作成

- **課題(2-1)**
 - **学籍番号(整数)の10進6桁の各桁の数を取り出す**
- **課題(2-2)**
 - **学籍番号(整数)の10進6桁の各桁の数からチェックディジット生成**

2回目～3回目

- **課題(2-3)**
 - **0～255の整数の2進8桁の各桁の数を取り出す**
- **課題(2-4)**
 - **8桁の2進数から、それが表す整数を求める**
- **課題(2-5)**
 - **2つの8桁の2進数の和を計算する.**

5つの課題のプログラムはそれぞれ 保存しておく

プロジェクト名, ソースプログラム名の例

- 課題(2-1)
 - プロジェクト名 p2_1
 - ソースプログラム名 p2_1.c
- 課題(2-2)
 - プロジェクト名 p2_2
 - ソースプログラム名 p2_2.c
- 各課題毎に, 別のプロジェクトにすること

学籍番号のチェックディジット

- プリントp.1の計算を行ってみる. OK?
- p.6の解説を読む. なるほど.
- この計算を行うプログラム作成が今日の課題(2-1)と(2-2)
- 課題(2-2)のプログラム完成後, 自分と周りの人の学籍番号でチェック
- TAが出題した学籍番号について, 課題(2-2)のプログラムを用いてチェックディジットを解答し, 正しければ出席とする.

課題(2-1)

学籍番号(整数)の入力に対し，1の位～100,000の位の数（10進数1桁目～6桁目の数）を求め，出力せよ．

- 1. キーボードから学籍番号を入力し，int型変数に格納**
- 2. 1の位～100,000の位について，各桁の数を求め，それぞれ，int型変数に格納**
- 3. 各桁の数を出力**

課題(2-1)

・プログラムの構造

- main関数のみ

```
#include <stdio.h>
int main(void)
{
    変数宣言
    文
    . . . .
    return 0;
}
```

プログラム作成上の指針(1)

```
int n0,n1,n2,n3,n4,n5;
int n;
```

プログラム作成上の指針(2)

```
scanf("%d",&n);
```

プログラム作成上の指針(3)

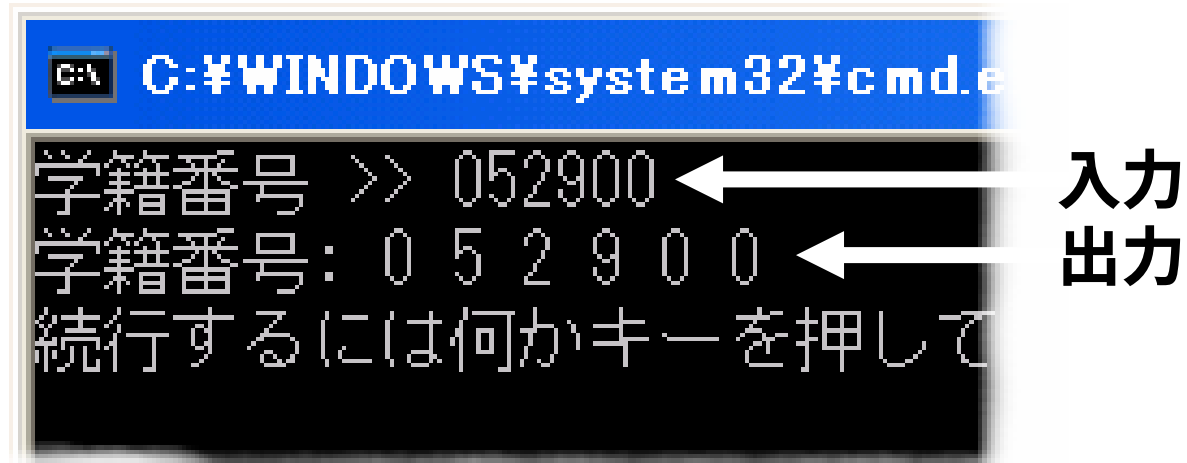
```
n2 = (n / 100) % 10;
n3 = (n / 1000) % 10;
```

プログラム作成上の指針(4)

```
printf("%d %d . . . .);
```

scanfの使い方を調べてみよう

課題(2-1)のプログラムを作成しよう



```
C:\> C:\WINDOWS\system32\cmd.exe
学籍番号 >> 052900
学籍番号: 0 5 2 9 0 0
続行するには何かキーを押して
```


課題(2-2)

- **課題(2-1)のプログラムに，各桁の数から学籍番号のチェックディジットを求める関数を加え，学籍番号と共にチェックディジットを出力するようにせよ．**
- **チェックディジットを求める関数を定義することが主な作業**

課題(2-2)

- **プログラムの構造**
 - **関数**check_digitと**main関数**

課題(2-1)のソースコード

```
#include <stdio.h>
int main(void)
{
    変数宣言
    文
    . . . .
    return 0;
}
```

課題(2-2)のソースコード

```
#include <stdio.h>

関数check_digitの定義

int main(void)
{
    . . . .
}
```

課題(2-2)

```
#include <stdio.h>
```

関数check_digitの定義

```
int main(void)
{
```

```
    char cd;
```

```
    . . . .
```

```
    cd = check_digit( . . . . );
```

```
    printf("%d %d %d %d %d %d %c\n",
           n5,n4,n3,n2,n1,n0,cd);
```

```
    return 0;
```

```
}
```

main関数は課題(2-1)をコピーし、
以下を追加

char型→p.6

関数の呼出し

%cは単一文字への変換を指定

ソースコードのコピーの仕方(1)

- Visual Studioを2つ起動するのが最も簡単
 1. Visual Studioを起動し、課題(2-2)のプロジェクトを新規作成し、ソースファイルを新規作成する(通常のプログラム作成手順)
 2. Visual Studioをもう一つ起動し、課題(2-1)のプロジェクト(ソリューション)を開く
 3. ソースコードを2から1へコピー・貼り付け

ソースコードのコピーの仕方 (2)

- プロジェクトフォルダ構成を知っている人向け
 1. Visual Studioを起動し、課題(2-2)のプロジェクトを新規作成する。ソースファイルは新規作成しない
 2. エクスプローラ (マイコンピュータのダブルクリック) で、課題(2-1)のプロジェクトフォルダ内のソースファイル (～.c) を課題(2-2)のプロジェクトフォルダにコピーする。必要であれば名前を変更する。
 3. Visual Studioの課題(2-2)のプロジェクトで、[プロジェクト]→[既存項目の追加]で、2でコピーしたファイルを追加する

関数check_digitの定義

戻り値の型

パラメータ

関数の定義の仕方→p.8

```
char check_digit(int n5,int n4,int n3,
                 int n2,int n1,int n0)
```

リスト1

```
{
```

```
char cd;
int m;
```

ローカル変数

ローカル変数→p.9

.....

n5～n0からチェックディジットを求め、
それを変数cdにセットする。

.....

```
return cd;
```

cdの値を戻り値として関数を終了

```
}
```

チェックディジットの求め方

```
m = (7*n5 + 6*n4 + 5*n3 + 4*n2 + 3*n1 + 2*n0) % 11;  
if ((m == 0) || (m == 1))  
    cd = 'A';  
else if (m == 2)  
    cd = 'Z';  
else if (m == 3)  
    . . . . .  
else if (m == 10)  
    cd = 'B';
```

switch文を使ってもよい

解説: char型(p.6)

- 1文字を格納するための変数を宣言するときに指定する型
- 1バイト (8ビット) の符号付き整数型 (通常, 2の補数表現) で-128~127の値をとる
- 文字を代入するときは, `C = 'A';` のように.
- `'A'` はAの文字コード
- `"A"` は1文字の文字列 (2文字目が0の配列)

「'」はシングルクォート、
「"」はダブルクォート、等と読む

C言語における関数

- **C言語の関数: 名前をつけた「ひとまとまりの手順」**
 - その名前を呼ぶと、「ひとまとまりの手順」を実行できる
 - 「ひとまとまりの手順」は入力をもつことができる
 - 「ひとまとまりの手順」は値を返すことができる
- **(例) 数学関数sqrt: sqrtと名付けた平方根を計算する手順**

$y = \text{sqrt}(3);$ 関数呼び出し「sqrtさん. 値3をよろしく」
関数からの返答「1.7320508・・・だったよ」

関数定義 (関数を作ること)

- 値を返すのであればその型を指定する (戻り値の型)
- 名前を付ける (関数名)
- 入力があれば, その個数だけ, 型を指定し, 個々の入力値に名前をつける (パラメータ宣言)
- ひとまとまりの手順を書く ({ } の中に)

```
戻り値の型  関数名(パラメータ宣言)
{
    変数宣言等
    文
}
```

定義しただけ。
他から呼び出して初めて実行される。

関数呼び出し (関数を使うこと)

- 関数名 (入力値, 入力値, 入力値, ...)
 - 「入力値, 入力値, 入力値, ...」は, 関数定義によってはない場合もある.
 - 「入力値, 入力値, 入力値, ...」の個数と型は関数定義と一致
 - 値をもつ (値をもたないこともある)
- 例

```
y = sqrt(3); // 3の平方根をsqrtに計算してもらい,  
              // その戻り値をyに代入  
sqrt(y);     // yの平方根を計算してもらうが,  
              // その結果は捨てている
```

関数定義を記述する位置(p.7)

関数プロトタイプ宣言

- ・ 呼び出す場所より前

```
#include <stdio.h>
```

```
int mul(int a,int b)
{
    return a*b;
}
```

```
int main(void)
{
    printf("%d\n",mul(10,20));
    return 0;
}
```

- ・ 呼び出す場所より後

```
#include <stdio.h>
```

```
int mul(int a,int b);
```

```
int main(void)
{
    printf("%d\n",mul(10,20));
    return 0;
}
```

```
int mul(int a,int b)
{
    return a*b;
}
```

関数定義がプロトタイプ宣言を兼ねている

関数の定義の仕方(p.8)

戻り値の型 関数名(パラメータ宣言)

```
{  
    変数宣言等  
    文  
}  
int add(int a,int b)  
{  
    int c;  
    c = a + b;  
    return c;  
}
```

パラメータ宣言：2つのint型の値を呼び出し側から受け取る。それぞれの名前をa, bとして、関数定義のブロック内から参照する

処理結果を関数値としてセットし、関数を終える文

関数定義の仕方(p.8)

- 戻り値のない関数の場合

`void add(int a,int b)` 戻り値の型はvoid

{

`g_result = a + b;`

}

return文はなくてもよい
途中で終わりたいときは、
`return;`

`g_result`はグローバル変数

関数の定義の仕方(p.8)

- パラメータ宣言がない場合

```
void add(void)           パラメータ宣言はvoid
{
    g_result = g_operand1 + g_operand2;
}
```

**g_result, g_operand1,
g_operand2
はグローバル変数**

**呼び出すときは add();
「add;」ではない。**